

唯一無二の探究型学習で

# リベラルでフェアな 新しい紳士」を育成する

海城中学高等学校(東京都新宿区)は、1891年(明治24年)創立の海軍予備校を前身とする。東京大学の入学試験合格者数は、常に全国上位。受験だけでなく、公平性や自由などを重んじる教育方針について、詩人でもある大迫弘和校長に聞いた。

取材・構成◎山下 亮 (読売新聞教育ネットワーク事務局) 写真◎多田貫司 (同)

## 「生徒主義」を貫く

—海城中学高等学校の伝統についてうかがいます。

海城は、今年で135年目を迎えました。伝統校の校長としての使命は、培われてきた教育に敬意を示し、それを大切にし、同時に望むべくは学園をさらに発展、前進させていくこと。校長就任以来ずっとそのことを考えています。

—どのような構想をお持ちですか。

海城に集った「海城生」たちの一人一人を徹底的に大切にしていきたい。つまり、「生徒主義」を貫くことです。一人一人を大切に思ういは、教職員に対しても同じです。生徒と教職員を徹底的に大切にするという二重性が備われば、海城は爆発的な力をつけていけるでしょう。

—「爆発」とは。

芸術家の岡本太郎さんの名言「芸術は爆発だ」にあやかっただのですが(笑)。単に、大学合格者数が増加する、という意味ではないです。130年以上にわたり培われてきた海城



海城中学高等学校 大迫弘和 校長

の教育が、ガッツと一気に飛躍するようなイメージ。それを表現しました。

—生徒の学力をサポートする仕組みには、どんなものがありますか。

元々、学力的には本当に恵まれた生徒たちが集って来ていますが、やはり得手不得手はありますから、中学1、2年時には、個々の学力に合わせた「指名講習」の制度を設け

ています。これに指名されたら必ず出席しなければなりません。なお、進学校ですので、高校3年時には、

大学名を冠した講座などを多数用意しており、受験体制を強化します。

## 専門性の高い授業

—2025年度入試で、東京大学の合格者数は49人。高い実績を支える先生方をどう評価していますか。

それぞれの担当教科の専門性は極めて高いです。準備される教材や展開される授業は大変ハイレベルで、先生方はまさにプロフェッショナルな教員集団です。高い進学実績を維持するための研鑽は、自主的に行っており、教育に対し、とても誠実に向き合っているのが分かります。海城の強みはここにあります。先生方が思う存分力を発揮できる環境を整えていくのが僕の仕事だと考えています。

—例えば、どのようなことですか。

中等教育の時期は、人間としての発達段階にあるので、当然いろいろなことが生徒たちに起こり得ます。そのような不安定な時期だからこそ、僕から生徒たちに「自由」の意味をしっかりと伝えていきます。

—自由について伝えるとは。

僕は、海城にある自由は「秩序的自由」であると思っています。自由とは、やりたい放題を意味しません。人間として許されないことには、「ノー」と言うべきです。この秩序的自由について、僕は「海城の自由」という詩を生徒たちのために書きました(<https://www.kaijo.ed.jp/poems/35829>)。そのような秩序的自由がある中で、先生方が安心して専門性を磨くための時間を割けるように、校長としての責任を担っていきます。校長就任1年目から、1000人ほどの全教職員に対し、学年初めにおよそ10分間の個別面談を行っています。教職員の皆さん一人一人が大切な存在であるという僕からのメッセージでもあります。

—ご自身は、探究型概念学習を本質とする国際的な教育プログラム

「国際バカロリア(I・B)\*」の普及に長く努めてこられました。

1991年以来、I・B教員としてI・Bに携わってきました。例えば海城が大切にしてきたものとして「公平性」というものがありますが、これはI・B教育の教育方法でもありません。一人一人が抱える学習上の障壁を取り除いて、次のステップに進ませてあげることが、I・Bの指導でも非常に大切にされています。

また、I・Bの核である「探究」、これも海城では以前から行っています。中学では、独自に「社会I・II・III」という総合学習を設けています。30年前から行われている海城の名物授業のひとつで、教科書を使わず、社会問題などをテーマに探究型の授業を展開してきました。

2021年夏には、化学、物理、生物、地学すべての実験室を備えた地上3階建ての「サイエンスセンター(新理科館)」が完成し、こちらでも探究型の学びを深めています。



英国での海外研修に参加した高1、2年の生徒ら(写真提供◎海城学園)

——著名人に「海城学術顧問」をお願いしていますね。

私の校長着任後に始めたもので、海城生の知的好奇心、社会的問題意識、芸術的感性に大きな刺激を与えてくださるであろう方々に就任をお願いしました。私の友人で様々な分野で活躍されている8人の方々が引き受けてくださっています。

例えば、詩人の仲間であるシンガー・ソングライターの加藤登紀子さん。23年9月、24年10月には、高校2年生が修学旅行で沖縄県に向かう直前、加藤さんに平和教育をテーマに講演していただきました。歌まで披露していただき、一般のコンサートのだったらファンが押し寄せるような、感動的な講演でした。海城生のために詩を書くこと、海城学術顧問など、僕がやれることを惜しみなく海城にささげていければと思います。

## 八ヶ岳を目指す

——卒業生は多彩ですね。

およそ3万人の卒業生は、等しく海城愛に満ちています。同窓会であ



サイエンスセンターの外階段を使って、チューブ内の水の高さで大気圧を測る実験をする中学2年の理科II(地学)の授業

る海原会の会長を務めるアナウンサーの徳光和夫さんのように、いろいろな分野で卒業生が活躍しています。学校の運営法人「海城学園」の古賀喜博理事長が、「国内最高峰の」富士山だけではなく、八ヶ岳を目指せばいい。いろいろな山々が存在する中で、それぞれの頂上を目指すのが海城だ」と話したことがあります。その通りだと思いますね。海城では「どこどこ大学を目指さない生徒の面倒は見ない」などというようなことはあり得ません。教育で大事なものは、生徒たちが「どうやって生きて



総合学習「社会III」の授業で、それぞれの発表に対して意見交換する中学3年の生徒ら

いきたいのか」「何を学びたいのか」「どう社会貢献したいのか」を考える中で、自由に進路を選択できることです。それぞれの頂上を目指す生徒に対し、我々教職員は公平に、全力でバックアップしていきます。

——目指す生徒像とは。

さきほど「秩序的自由」について話しましたが、そこに、「選択の自由」、「精神の自由」、そして「行動の自由」も加えたい。これらが保障されれば、生徒たちは伸び伸びと人間として成長していくでしょう。

海城ではリベラルでフェアな精神

を持った「新しい紳士」の育成を目指していますが、僕は、「新しい紳士」には「マナー」や「上品さ(decency)」も大事だと思っています。先生と生徒との間だけでなく、生徒同士や家族内でもそう。さらに、自分と異なる文化や言語を持った人たちに對しても、マナーを守ることが、上品であることが、新しい紳士としての大切な要素だと考えています。

\* 国際バカロレア(IBC)

1968年、ジュネーブで誕生した国際標準プログラム。「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を使命として掲げている。2013年から文部科学省もIBCの国内普及を推進している。

## おおさこひろかず 大迫弘和さん

1953年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。学校長や大学教授、文部科学省国際バカロレア日本アドバイザリー委員会委員などを経て、2023年、海城中学高等学校の第14代校長に就任した。教育関係の著書や詩集多数。詩人の谷川俊太郎氏とも交流が深かった。

